

令和2年度第1回廃棄物減量等推進審議会 会議録

1 開催日時

令和3年3月17日(水)

開会 午前 10時30分

閉会 正午

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎2階 201会議室

3 出席委員

竹澤伸一、加藤孝、佐藤庸子、相羽かよ子、谷口悦予、小林寛司、本間彰、
伊藤紀子、白坂弘子、田中道代 10名

4 欠席委員

榊田英也、鈴木幸恵 2名

5 傍聴者数

0名

6 出席した事務局職員

環境課長：木戸雅浩、環境課長補佐：西尾元伸、環境課主査：森康臣

7 議題等

- (1) 令和2年度のごみ排出状況
- (2) 本市における一般廃棄物処理基本計画の進捗状況
- (3) リサイクルひろばクルクルについて
- (4) 充電式電池の分別促進について
- (5) 意見交換

8 会議の要旨

(1) 議題：令和2年度のごみ排出状況について

【主な意見】

- ・コロナ禍の情勢の変化により、自宅で過ごす時間の増加が、家庭ごみの増加要因だと考えられる。(加藤委員)
- ・減少している時期の要因も追求できれば、ごみ減量対策に繋げることができると思う。(会長)

【主な質問】

- ・7月、8月、1月の家庭ごみは昨年度と比較して減少している。時期的に夏休み、冬休み、お正月の時期と関連付けができるが、事務局として何か要因を把握しているか。(小林委員)
- ⇒根拠となる要因は把握できていない。自粛要請が解除され、外出する機会が増えたことも一因と考えられる。(環境課長補佐回答)

(2) 議題：本市における一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について

【主な意見】

- ・実際に行動するのは市民であるため、幅広く関わってもらえるような実効性がある計画を設定されると良いのではないか。(会長)
- ・レジ袋有料化となった後も、家庭ごみ排出用のため購入している。レジで購入できる袋は重さに弱いと感ずるため、耐久キログラム数を記載してもらいたい。(谷口委員)
- ・市民にとって話題にしやすい取り組みとそうでない取り組みがあり、現在の計画はそれが並列で表記されている。達成の容易さごとに表記するなどの見直しもできると良い。(会長)
- ・リサイクルひろばで廃止したリユース品は、公民館などで定期的に提供の場を設けてはどうか。その場で余ったリユース品は、提供者が持ち帰れば良いと思う。(加藤委員)
- ・リサイクルひろばが便利な場所に移設してありがたいと思う反面、逆に目立って利用しづらくなったという意見も聞く。多様な意見を活かすために、利用者からアンケートを取っても良いと思う。(会長)
- ・家庭系の燃えるごみ減量化がこのまま下げ止まりしてしまう場合は、燃えるごみの有料化について再度検討しなければならないと感ずる。実際、有料化の推進自治体は近年増加している。(会長)

【主な質問】

- ・推進主体に明記されている推進会議について、詳細を聞きたい。(会長)
⇒市民と有職者から構成された会議で、主に市の取り組み内容について一緒に検討をする会議である。(環境課長補佐回答)
- ⇒自主的にごみ減量施策について市民意見をより汲めるよう組織された団体である。(環境課長回答)
- ・No.6の取り組みについて、今年度で「マイバッグ持参運動は廃止し」とあるが、レジ袋が有料化となったから廃止したということか。消費生活研究会として、マイバッグ持参の取り組みを推進している。(白坂委員)
⇒レジ袋有料化になる前は、マイバッグ持参運動の協力店舗があり、レジ袋の未配布枚数分の金額を市へ寄附してもらっていた。協力店舗との協議の結果、レジ袋有料化後は、この取り組みは廃止することとしたが、各団体や市民の皆さんが行うマイバッグ持参運動は引き続き進めていただきたい。(環境課長回答)
- ・リサイクルひろばにおけるリユース品を見直した理由を教えてください。(田中委員)
⇒民間サービスの充実や個人間取引の普及状況、また、持ち込まれるリユース品の半数以上が廃棄せざるを得ない状態であることを踏まえ、行政が積極的に関与する度合いが薄れていることから見直しを行った。(環境課長補佐回答)

(3) 議題：リサイクルひろばクルクルについて

【主な意見】

- ・利用しやすい場所へ移設したが、円滑な運用を図るため、普段は資源ごみ集積所に排出してもらい、出し忘れや引っ越しなどの際に利用する施設であるという理解を広めていきたい。(環境課主査)

【主な質問】

- ・移設後、約一週間経過するが、移設前と後の変化は何かあるか。(会長)
- ⇒移設前と比較しても利用者数は大きく変わらず、日によっては移設前より利用者が増加している。そのため、資源ごみの保管場所に苦慮しているところである。こまめに回収を依頼して運営している。(環境課主査回答)

(4) 議題：充電式電池の分別促進について

【主な意見】

- ・家電製品を購入する際は、処理方法まで認識してもらえると良い。(会長)

【主な質問】

- ・特になし。

(5) 意見交換

【主な意見】

- ・食品ロスについて、店舗において販売期限(賞味期限の約2か月前)が過ぎた食品は、大部分を廃棄している。これらを自治体等を通して必要な施設へ提供する仕組みを構築できたらと思う。(小林委員)
- ・フードドライブのような活動は、商工会内でも実施する計画がある。その際は利用してもらいたい。(佐藤委員)
- ・再度、燃えるごみの有料化について検討する際は、早め早めに市民にも理解が得られる情報や理由を提供してもらいたい。(本間委員)
- ・自治体の取り組みだけでは限界がある。ごみの減量等の取り組み主体は市民であるため、市民の参画機会を増やせる施策を設定してはどうか。(田中委員)
- ・例えば、名古屋産業大学、名古屋経営短期大学の学生も、環境やごみ減量に関する広告塔となるなどの協力は可能である。行政と市民が互いに働きかけ、見える形で取り組みを推進できれば良いと思う。(会長)